

2025年1月号(No.21)

多気町立図書館だより

TEL:0598-38-1133 (多気図書館)

TEL:0598-49-4500 (勢和図書館)

あけましておめでとうございます。 <https://www.town.takimie.jp/library/index.html>



本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

～特別整理期間のお知らせ～

勢和図書館

1月28日(火)～2月6日(木)

返却本はブックポストへお願いいたします。

たきカルタぬり絵展示

多気図書館：1月5日(日)～1月30日(木)

勢和図書館：2月7日(金)～2月27日(木)

多気町の保育園、ぶどう組のみんなが色をぬってくれた“たきカルタ”。両図書館ギャラリー・ホールにて展示いたします！

多気図書館

1月のカレンダー

□：休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30～			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10 おはなし おもちや	11 おはなし ぼけっ
12	13	14	15	16	17 赤ちゃん おはなし 会	18
19	20	21	22	23	24	25 おはなし ぼけっ
26	27	28	29	30	31 整理日	

ブックスタート(のびのび) 1/24(金) 10:00～

～コーナー紹介～

・たきカルタぬり絵展示に合わせて・・・

カルタに描かれた多気町に関する資料や、1/15(水)より資料館にて企画展示を行う『民具ドデザインー昔の暮らしに学ぶ』展と合わせた昔の道具たちの本も合わせてご用意！

・おみくじ&福本袋

貸出本が2冊入った福本袋。ラッキー本が書かれたおみくじ。図書館でもお正月気分を！

借りられ
ます



勢和図書館

1月のカレンダー

□：休館日

日	月	火	水	木	金	土
おはなし会 10:30～			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 おはなし会
12 ほんと カフェ	13	14	15 おはなし会 (0～3歳)	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25 おはなし会
26	27	28 ← 特別整理期間	29	30	31	

～イベント紹介～

・ほんととカフェ

と き：1月12日(日) 午後1時～4時

コラボ：ホテルカゴさん

B's shopさん

・勢和公民館書道室 書道展

と き：1月6日(月)～1月27日(月)

場 所：勢和図書館エントランスホール

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」

か「seivalib」で検索



1月のおすすめ本



『「きづき」の快感』 斎藤孝：著 幻冬舎 (141.5 ¥)

「きづき」の多い人とはどういう人なのでしょう？様々なことに興味関心を持ち、知識の幅があると「きづき」の範囲も増えてくる。仕事の効率が上がったり、日常の何気ないことの楽しみに繋がったり。色々なことにアンテナを張って「きづき」のもととしたいですね。そんな「きづき」の多い一年となりますよう。

『皇室の茶坊主』 小川金男：著 創元社 (288.4 ¥)

大正天皇は、誰にでも気やすく話しかけ、乗り物を速く走らせて喜ぶ無邪気なところがあった。

明治・大正時代の皇族の人物像だけでなく、宮中において様々な仕事をする人々の様子や生活を詳細に描いた一冊。なかなか知りえない宮中の生活とは…！



『世界の果てまで行って喰う』 石田ゆうすけ：著 新潮社 (290.9 ¥)

「食べる」ということが、いかに人の心を動かし、生きる力を与えてくれるものなのか！自転車ですべてを旅している著者のドラマチック・エッセイ。その国、独特の食文化に触れ、旅の面白さや感動が伝わってきます。そして、日本の良さを再確認できるかもしれません。さあ、世界の果てまで連れていってもらいましょう！

『ななつ星への道』 唐池恒二：著 PHP 研究所 (686 ¥)

豪華寝台列車「ななつ星」の昔から今日に至るまで、そして未来に向けての秘話。プロジェクトが立ち上がり、実現に向けて動き出したとき、人が、組織が、地域までもが変わりだしました。世界一の列車「ななつ星」とは？

パールに包まれた、特別な列車での一期一会のおもてなし…経験してみたいものです。



『さいわい住むと人のいう』 龍野江名：著 ポプラ社 (F913.6 ¥)

元教師で誰もが、こんな人が自分のおばあちゃんだったらなあと思うような、優しくて素敵な老婦人桐子さん。彼女が人生をかけて追い求めた幸せとは、誰のためのどんなものだったのか？ 20年ごとに廻り、たどられる桐子と妹・百合子が歩んできたそれぞれの人生。三重県出身の作家、龍野さんが描く優しく切ない姉妹物語です。

『どんちき 耕書堂青春譚』 矢野隆：著 新潮社 (F913.6 ¥)

耕書堂を営む龍屋重三郎のもとにはいろんな面白いやつらが集まってくる。今日も幾五郎という男がやってきた。この男、後には有名になるあの人物……。重三郎を取り巻く、未完成な才能を持つ男たちが、それぞれの才を開花させるべく己の夢につまづきながらも突き進む！

『龍屋重三郎 江戸の反骨メディア王』 堀田昌文：著 新潮社 (289.1 ¥)

幾人もの有名作家を見出した龍屋重三郎。どんな人物だったのか？

